

ディサースリアの機能的制限の各段階における介入方法 by Shin 2008.7.6

段階	有用な発話がない	AAC で自然な発話を補う	発話明瞭度の低下	発話は明瞭だが、障害があるのは明らか	発話の障害はない or ディサースリアがあることは周囲にはわからない
閉じ込め症候群	<p>1.対象者と家族への情報提供</p> <p>2.基本的 comm.の確立 : 基本的理解能力の評価 信頼性のある運動反応の同定 はい/いいえによる単純な答えの促進 選択肢の利用 指差し 電気機器の使用</p> <p>3.機能的改善 : 呼吸の支持性を改善するための運動訓練と姿勢の調節 構音運動における速度や範囲、正確度を増すための口腔や舌の運動訓練</p>	<p>1.AAC : 文字盤 選択肢を限定した質問に対しては口頭ポインティング・スピーチ</p> <p>2.発話課題を用いた訓練 : 対照生成ドリル</p> <p>3.補綴的治療 : PLP など</p>	<p>1.自然な発話による comm.</p> <p>2.AAC : comm.の破綻や騒音下に限定</p> <p>3.補綴的治療 : PLP 拡声器</p> <p>4.発話治療 : 明瞭度・自然度の改善 生成の容易さを損なう 要因の解消</p>	<p>1.自然な発話を疲労せずに生成する訓練 : プロソディーに焦点を当てた技法(フレージング法など)</p>	<p>※重篤な CVA 患者がこの段階まで回復することは稀である</p>
頭部外傷	<p>1.患者が意思選択決定できる方法の確立 : はい/いいえの答えが一貫して得られる方法など</p> <p>2.文字盤やコミュニケーションボードの使用</p> <p>3.メッセージを制約なしに生成可能な AAC の使用</p> <p>4.機能的改善 : 呼吸の支持性の改善(ストロー・ブローイングなど) 呼吸制御や発声の安定化</p> <p>5.補綴的治療 : PLP の適合など</p>	<p>1.自然な発話と AAC の併用 : 発話の文脈や話題を聴き手にあらかじめ伝える 文字盤で発話を補う 対象者がよく使う語句をリストアップした「よく使われる語句集」の作成と指導</p> <p>2.発話のための機能訓練 : 持続発声 1-2 音節語の発話</p>	<p>1.comm. 状況の最適化と聴き手のスキル向上</p> <p>2.明瞭度低下の要因となっている側面に焦点を当てた発話訓練 : 発話速度の調節 不適切な呼気段落の除去など</p>	<p>1.発話の自然度の改善</p>	<p>1.認知的要求度の高い場面を想定した comm. 治療</p>
パーキンソン病	<p>1.個人個人に合った AAC : 1文字ごとにキーを打ち同時に音声や文字が出力される装置など</p>	<p>1.発話速度の調節訓練 : ポインティング・スピーチ ペーシング・ボード</p> <p>2.聴き手のスキル訓練</p>	<p>1.発声に対する治療 : 声帯内転強化(プッシング法など) MPT の延長 呼吸の支持性を高める手技 LSVT</p> <p>2.定期的な維持療法</p> <p>3.発話速度の調節訓練 : フレージング法など DAF</p> <p>4.補綴的治療 : 拡声器など</p>	<p>1.発声に対する治療 : 声帯内転強化(プッシング法など) MPT の延長 呼吸の支持性を高める手技 LSVT</p>	<p>1.情報提供 : 発話が正常であることの確認 現在可能な介入方法の確認</p>
ハンチントン病	AAC	1.パートナーの援助による AAC	1.発話明瞭度低下への対処	1.発話の改善訓練	1.コミュニケーション環境の調整

	:スケジュールボックス スケジュールボード 基本的な選択文 潜在的な comm.行動の察知 文字盤の使用	:文字盤の使用や選択の際 の援助 保続を軽減し話題を維持 するための援助 発話が理解できない時に 綴りをはっきり言うように 促す	2.呼吸パターン訓練 3.発話パートナーの教育 :認知機能低下への対処 簡単な反応ですむような comm.のとりかた 話題を確立し維持する 方法 余計な騒音などの妨害因子の 軽減	:リラクゼーション法(あくび ため息法、咀嚼法など) 発話速度の維持訓練 2.発話パートナーの教育 :認知機能低下に対する対 処 質問から答えまでの時間 を辛抱強く待つなど)	:日常の会話のための簡単な 文を用意する 話が逸れないようにする 保続を軽減する
ALS	1.AAC :確実なはいいいえの確 立 注視装置 comm.機器	1.自発話の AAC での補助 :キーワードを書く ポインティング・スピー チ 単語のつづりを言う 「通訳」してもらう 注意を喚起する装置 状況に応じた手段の変化 電話の補助装置 ポータブル補助装置	1.発話速度の調節 2.体力の温存 3.発話生成の正確さを増す 4.comm.の途切れに対する方 略を考える 5.発話「通訳」の育成 6.伝達内容の複雑さや長さ を制限する	1.環境の調整 2.伝えたい内容の文脈をは っきりさせる 3.発話パートナーのスキル 向上 4.集団における comm.の取 り方の教育	1.情報提供 :発話が正常であることの 確認 今後の comm.経過について の一般的な情報
多発性硬化症	※MS の場合この段階での AAC はきわめて困難	1.自発話の AAC での補助 :ポインティング・スピー チ 2.AAC の指導	1.発話速度の維持 2.comm.の途切れの改善 3.呼吸の支持性の調節 4.呼吸の調節 5.フレージング	1.体力を温存し声量を調節 する手技 2.リラックスした協調的な 発声 3.メリハリの利いたスト レス 4.言語修復(言い直し)	1.情報提供 :発話が正常であることの 確認 質問への応答 体力を温存する話し方の 指導

M.Yorkston Management of Motor Speech Disorders 参照